



みまさかのくに

美作国建国1300年

美作国建国1300年ってなあに？

平成25年（2013）は、美作国が建国されて1300年という記念すべき年を迎えます。そこで美作地域の10市町村が中心となって実行委員会を立ち上げ、平成26年3月までを事業期間としてさまざまな記念事業を展開していきます。美作国建国から1300年の節目を契機に、地域の人たちが郷土を愛し、それぞれの地域を盛り上げ、一体感を高めていきましょう。

◆美作国が建国されたのはいつ？

「続日本紀」によると、和銅6年（713）4月3日に誕生したとあります。

これは、和銅3年（710）年、奈良の平城京に都が移された3年後のことです。

◆美作国の範囲は？

当時の備前国から、北部の6郡（英多郡、勝田郡、苫田郡、久米郡、大庭郡、真島郡）を分割して作られました。

◆美作国の政治の中心はどこだったの？

当時、各国には役所である国府が置かれました。美作国の国府は、現在の津山市山北・総社の一帯にありました。

◆事業のシンボルはどんな意味？



10市町村（津山市、真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町）による連携の輪が、人々の「美しき心」を育み、渦巻くパワーが生まれ「新たな美作の水」となって広がってゆく様子を表現しています。

お問い合わせ先

美作国建国1300年記念事業実行委員会 電話 3513434

館長のガラストーク

■藤原 信幸 「植物のかたち」2012年



藤原さんは今回4点の作品を出品しています。1点は半透明の白っぽい作品で、3点は黒っぽい花のような形です。いずれも現在の職場、東京芸術大学周辺の植物をモチーフにしていますが制作方法は若干異なります。

半透明の方は蛍光灯に使われていたガラス管を再利用したもの。耐火石膏で作った型の中に砕いたガラス管を入れ電気炉の中で加熱して溶着します。温度を下げる時ガラスの表面が微妙に収縮し、また、管に含まれた金属により表面がオパールのような光沢を放ちます。それが植物の有機的な生命力の表現に役立っています。

黒っぽい方の3点は、棹先に着けた溶けたガラスの表面に黒いガラスの粉や粒をまぶし、それを引っ張ってガラス棒を作り、適当な長さに切って電気炉の中に並べ溶着しています。極細の黒い線はランダムにあちこちを向き、厚みのある複雑な織物のようになっています。

いずれも、エスキースの中の草花の切り抜きや断片的なデッサンから派生したイメージをガラスで立体にしたもので、ガラスという素材の特性をうまく引き出しながら、植物の旺盛な生命力の表現を成し遂げています。

妖精の森ガラス美術館 館長 畠山 耕造

＜展覧会情報＞ 1. 2012年3月28日（水）～2012年7月16日（月）
「ひらめきとかたちーガラスのエスキースと完成作品ー」

お問い合わせ先 妖精の森ガラス美術館 電話（0868）44-7888